

ひとりから

真宗大谷派青少年センター機関紙『ひとりから』
発行日/2015年12月1日(年4回発行)
発行所/真宗大谷派(東本願寺)青少年センター
〒600-8164 京都市下京区護国寺通六条下る上柳町199
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-351-9599
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp
発行人/青少年センター長 木越 渉



蓮ちゃん通信 その①

2016年3月5日(土)～6日(日)
雪に愉しむ池の平
with 子ども報恩講開催!



子ども報恩講をお勤めすると共に、豊富な雪の上を手づくりの“すのこぞり”で滑ります。お誘いあわせの上、是非ご参加ください。

詳しくは、高田教務所内「池の平青少年センター係」
☎025-524-3913 までお問合せください。

池の平青少年センター

検索

おとなも子どももほとけの子

青少年スタッフ 佐藤 聴恵

子ども会をしていて、“ほとけの子”と聞くと、自分を抜いて子どもばかりに目が行きます。

数年前にある女の子に「なんで手を合わせるの?」と聞かれました。その時の私は何も答えられず、「なんでだろうね」としか言えませんでした。

お寺で育った私は、手を合わせることに何の疑問も持たず、生きてきました。それがいいことなのか、悪いことなのかは別として、その子の何気ない一言で、自分が何も知らないことに気づかされました。

知っているつもりで本当は知らなかったり、わかったような気になっていたり、いつの間にか私は自分を“おとな”として子どもの上に立った気になり、何かを教えようとしています。

“おとなも子どももほとけの子”この言葉を知ってから、謙虚になれない私がいまいます。子どもたちと「みんなほとけの子なんだって」と話す中で、いつも忘れてしまう自分と出遇います。

いろんな“ほとけの子”と出遇って、自分も“ほとけの子”なんだと思えた時、言葉にできない気持ちで涙が出ました。それでもやっぱりすぐ忘れてしまうから、子どもたちと一緒ににお寺に集いたいと思います。

声なきメッセージ

仙台教区 白木澤 琴

「今度、お仕事で文章を書かなきゃいけないので、どうしたらいいんだろうか。」

いつもお寺に遊びに来てくれる中学生の女子たちに泣きつきました。すると「お坊さん」「お寺」の話、「死」について思うことなどを書いたらどうかなど、沢山のアドバイスをくれました。

「死って、怖いとしか言えない！でも自分もいずれは体験する悲しいことだと思っ」

「知ってる人が死んだら、悲しいから、できれば死は来てほしくないな」



中には、おじいちゃんを亡くして、一週間以上泣いてばかりいたことや、留守中にペットが亡くなり、きちんとお別れできなかった苦しさを話してくれた子もいました。

「死」について、たくさんの気持ちを子どもたちが抱えていて、悩んでいたということを見せてくれました。「死」ということは私自身もわからなくて逃げたくなるけれど、お坊さんとしてお参りしているときに感じた「死」のお話をしたいと思えます。

ある日、私の友達のおじいさんが亡くなりました。お散歩をしに出かけて倒れ、突然に亡くなってしまったのです。

枕経のおつとめに伺つと、静かなお部屋に、友達とそのご家族がいて、亡くなられたおじいさんは真っ白なお布団をかけられて横になっていました。緊張しながらお経を読み始めると、家族みんなの小さな泣き声が部屋中に広がりました。

子どもたちと聞く法話

おつとめが終わってからのことです。友達と一緒に、おじいさんの枕元へ行き、亡くなられた姿にお会いしました。眠っているような優しいお顔。私は頭にそつと触れて、「お疲れ様でした。有難うございました」と、語りかけました。するとそれまで後ろで座っていた友達は、目にくさんの涙を浮かべて、恐る恐る、おじいさんのほっぺたに触れました。そしてゆっくり頭をなで、こらえていた涙を流して大声で泣きながら、おじいさんのほつぺたを包み込むように、何度も何度も触れたのです。

亡くなられたおじいさんの、ひんやりして、柔らかくないほつぺた。さすっても起きてくれないし、返事もしてくれない。それでも、残された大切な家族の悲しみを、静かに、全部まるごと受け止めてくれているように感じました。

どれくらい時間が過ぎたでしょうか。だいぶゆっくり呼吸が整ってきた友達は「おじいちゃんの頭なでたの初めてだった」と、ちょっとだけ笑顔を浮かべて話してくれました。

私たちに命がけで「死」を教えてくださいましたおじいさん。私にもみんなにも「死」は必ずくる。それは今日か明日かはわからない。だからこ

「今を大切に精一杯、精一杯生きようね」そんな声なきメッセージを、おじいさんからいただいたような気がします。

南無阿弥陀仏

蓮ちゃん通信 その②

絵本100冊プレゼント応募受付中!

お寺の子ども会で絵本を活用してみませんか？
詳しくは、10月末の寺院・教会定期直送便同封の応募要項、
もしくは青少幼年センターホームページをご覧ください。

【2015年12月18日(金) 応募×切】

東本願寺 青少幼年センター

検索



お寺で

親子のゆったりタイム

子どもたちとあそびながら
本堂でおしゃべりしませんか？

乳幼児と
その保護者向け



ひとりからはじめる
イベントレシピ



ワイワイ

語り合おう!!
子育ての悩み、相談、
アドバイス...

がやがや

みんなで仏さまに
手を合わせましょう。

子どもたちは広い本堂で
おもいっきりあそんでね!

ワンポイント
アドバイス

- 1～2時間の範囲で開催。
- きっちりとしたプログラムを作らず
子どもたちの様子を見ながら臨機応変に。

お菓子と
飲み物で
リラックス...



家事や仕事をはなれて、お母さんやお父さんもリフレッシュ
できる場、お寺がそんな交流の場になればいいですね。

蓮ちゃん通信 その③

東本願寺文庫幼児広場

毎月第2木曜日(ただし、8月と2月は第3木曜日) 10:30～12:00
「しんらん交流館」絵本コーナーにて開催しています。見学大歓迎です!
詳しくは、青少幼年センターホームページをご覧ください。



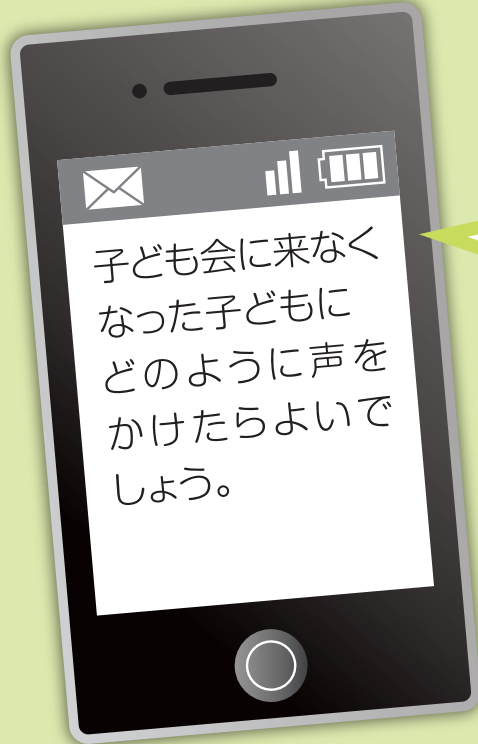
東本願寺 青少幼年センター

検索

Re:

サガエさんおしえて

子ども会での悩みや困りごとをサガエさんにお尋ねするコーナーです。



子ども会に来なくなった子どもにどのように声をかけたらよいでしょう。

さがえ なつみ
佐賀枝 夏文

1948年生まれ。大谷大学名誉教授。児童福祉施設等での児童指導員、心理判定員を経て、現在は高倉幼稚園長で青少年センター研究員。カウンセラーネーム「サガエさん」です。



だれでも集える「子ども会」

「子ども会」を楽しみに参加している中心的な子どもが来なくなった場合は、時間をあまりおかないで「あなたが来てくれないと子ども会がうましくない…」 「君が来てくれないと、なんとなく活動が停滞して…」という主旨の内容を、できるだけ会ってはなしてみてもいいでしょう。この子どもの場合は、子ども会の役割と関係が出来ているはずですから、直接事情を聞いてはいかがでしょう。事情を聞かなければわかりませんが、参加メンバーとの衝突が原因の場合は、本人がどのようにしたいかを優先して、急がずに解決の方向性を模索する必要があります。また、事情がはっきりしない場合や、言いにくい事情を抱えているようでしたら、性急にすすめる前に、少し時間をかけて見守りながらすすめる必要があります。また、「子ども会」の活動内容に不満や要望があるようでしたら、求めるものを聞いてすすめるようにしてはいかがでしょう。

また、「子ども会」を休みがちで、最近すっかり来なくなった場合は、主催者の方もなんとなく来なくなる予感があったとおもいます。難しいことですが、この子のように気持ちが「子ども会」に向いていない場合、子どもの「居場所」と「その子のスタイルで過ごせないか」を考えることも大切です。

みんなが、だれでも集える「子ども会」ということは、大切にしたいことです。

子ども会の悩みや困りごとをお寄せください!

これから子ども会をはじめようとする方や、すでに開かれている方のご質問に「Re:サガエさん教えて」のコーナーにてお答えします。

宛先は…oyc@higashihonganji.or.jp

蓮ちゃん通信 その④

子ども会情報募集中!

“お寺につどう子どもたち”の写真や動画など子ども会の内容をお寄せください。巻頭写真に採用された方には、東本願寺キャラクターグッズをプレゼントします!

宛先は、「郵送」または「E-mail」
oyc@higashihonganji.or.jp
「『ひとりから』子ども会情報係」まで



◎「子ども会」という形だけではなく、自由な発想で青少年教化を考えていきたい、それが青少年センターの現在の取り組みの一端です。今回イベントレシピで紹介した「幼児広場」、法話コーナーでは日常の法務の中で子どもたちとの関わりという視点で原稿を書いていただきました。私一人がここにいること、力まずそこから自然と伝わるのが教化なのかもしれません。一去年今年揺れる光と鐘の音(青セ主幹)

◎「親子のゆったりタイム」、まさに私の近くでも計画されています。日頃の悩みや不満がこぼれることもあるでしょう。そんなとき「おとなも、子どももほっとの子」という言葉に少しでも触れることができれば、子どもや家族との関わりを見つめなおすきっかけが生まれるかもしれません。(編集長)

編集後記

